

## 活動記録書

開催日： 令和8年3月5日(木) 天候 晴	開催テーマ： 「龍伝説が眠る江の島弁財天への旅」
開催場所：藤沢市	記入者：横山美智男
参加人数：会 員 21 名 ビジター 1 名 計 22 名	
<p>実施内容（実施の項目、方法、効果・成果、宿題 等）：  コース：片瀬江ノ島駅(集合)～洲鼻通り石碑～地下道浮世絵～江の島弁天橋～青銅の鳥居～旧岩本院（岩本楼）～杉山検校福石～辺津宮～奉安殿～中津宮～奥津宮～龍宮～杉山検校墓～江の島バス停前(解散)</p> <p>好天に恵まれ、富士山の眺望を楽しみながら、弁財天と龍伝説の残る江の島を巡った。  集合は片瀬江ノ島駅、竜宮城を思わせる駅舎の屋根にはイルカ像がある。出発前挨拶の後、江ノ電江ノ島駅から江の島へ続く洲鼻通りへ向かった。洲鼻通りは境川の河口に由来する名で、古くから江島神社参詣の参道として栄えた道である。国道をくぐる地下道の壁には広重や北斎の浮世絵が描かれ、江の島と対岸の浜が干潮時に地続きとなる「トンボロ」現象の様子も表されている。</p> <p>地下道を抜けると江の島弁天橋に出る。江の島に最初に橋が架けられたのは明治24年の木橋で、現在の江の島大橋は昭和39年の東京オリンピックに合わせて造られた。橋の入口には龍燈籠があり、江の島に伝わる弁財天と五頭龍の伝説を思わせる。伝承では、かつて深沢の沼に五つの頭を持つ龍が住み、人々を苦しめていたが、欽明天皇十三年(552)に海中から江の島が湧き出し、美しい天女弁財天が現れる。龍は弁財天に恋をし改心、夫婦となり里人を守る存在になったと伝えられる。</p> <p>橋を渡ると青銅の鳥居が建つ。扁額には龍が彫られ「江島大明神」の文字が刻まれている。参道の坂道には土産物店が並び、途中には江戸時代に江の島全体の総別当であった岩本院（現在の岩本楼）がある。エスカーで辺津宮へ進むと、銭洗いの池には白龍が祀られている。辺津宮は建永元年(1206)の創建と伝えられ、現在の社殿は昭和51年に改築された権現造りで、屋根には江島神社の社紋である「向かい波の三つ鱗」が見られる。</p> <p>奉安殿では八臂弁財天と妙音弁財天を拝観した。八臂弁財天は鎌倉時代初期の作とされ、源頼朝が奥州藤原氏調伏を祈願して勧請したと伝えられる。妙音弁財天は琵琶を抱えた座像で、俗に裸弁財天とも呼ばれる。江の島弁財天は安芸の宮島、近江の竹生島と並び日本三大弁財天の一つ。</p> <p>さらにエスカーで中津宮へ向かい、昇殿拝観して権禰宜から丁寧な説明を受けた。天井には四季の花鳥画、壁には鮮やかな彫刻が施されている。創建は仁寿三年(853)で、社殿は元禄2年(1689)に徳川綱吉によって再建された。現在の彩色は平成の改修によって往時の姿がよみがえったものである。</p> <p>三本目のエスカーで島の頂上へ進み、御岩屋道を通って奥津宮へ向かった。途中には36匹の猿が刻まれた群猿奉養像庚申塔などの史跡が見られる。奥津宮は弘仁五年(814)に弘法大師が弁財天像を刻んで創建したと伝えられ、拝殿天井には江戸の絵師酒井抱一による「八方睨みの亀」享和三年(1803)奉納を、平成6年に片岡華陽が復元したもの。龍が描かれた大きなしゃもじが置かれ、拝殿脇の石灯にも龍が彫られている。近くには平成5年、岩屋の真上に建てられた龍宮があり、立派な龍が参拝者を見守っている。</p> <p>山を下り、参道に出る少し前に杉山検校の墓を海側斜面下方に見る。参道を下り、江の島バス停前で解散。</p>	
<b>参加者の状況・意見など</b> 予報に反し風も弱く穏やかな探訪日和となった。昇殿拝観、神社からの丁寧な説明などもあり好評であった。登りは全員エスカーを利用、少し時間オーバーしたが無事に探訪を終えた。	
<b>次回の予定：</b> ・4月2日(木)10時 京急逗子葉山駅南口(到着時先頭側) 「逗子葉山に三浦一族の伝承を探る」 ・4月10日(金)10時 金沢公会堂多目的室 「令和7年度定時総会」	